

京都・彼岸山のバードバスに飛来した 鳥たちの四季

中島 拓 (Honey Woods・株式会社地域環境計画)



目的

森には人の想像を超えるほど多くの生き物が生息している。自動撮影カメラを使うと、毎日連続して機械的にデータを取得するため、生き物たちの意外な姿が記録されることも稀ではない。森のバードバスを利用する鳥たちの利用実態を知るため、興味本位で自動撮影カメラを設置してみた。

今回の報告では、バードバスに飛来する鳥たちの種類や利用頻度から、森を利用している鳥類相を明らかにするとともに、鳥たちの季節変化や生活実態の一端に迫ろうとした。

方法

- 2022年1月17日～2023年11月11日（664日間のうち、記録541日、欠測123日）、バードバスに自動撮影カメラを設置し、24時間撮影。
- 撮影写真をもとに、種名、個体数、日時を記録。時系列で個体が変わった場合は全て、同一個体の可能性がある場合、3分以上空いた場合に記録。



調査地

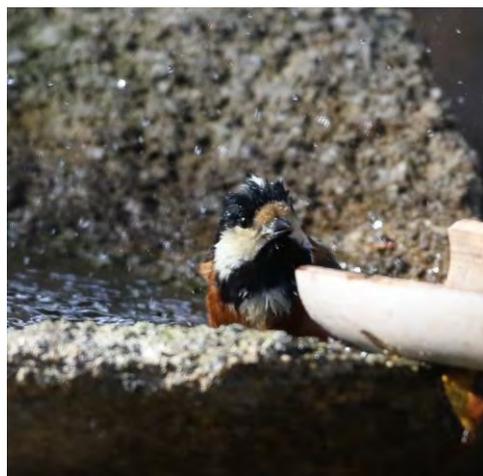


京都府亀岡市千歳町

結果と考察

■確認された鳥類

- ▶ およそ2年の観察により確認された鳥類は、31種（のべ4,333個体）であった。
- ▶ 季節別の確認種数は春季が26種と最も多く、次いで冬季と夏季が同数の15種、秋季が14種であった。春季は冬鳥と夏鳥が交錯する時期でもあり、加えて、渡り途中の個体が一時的に姿を現すため、種数が多くなったと考えられる。
- ▶ もっとも個体数が多かったのはヤマガラ（1.91個体/日）、次いでキビタキ（1.31個体/日）、ヒヨドリ（1.28個体/日）の順であった。
- ▶ カルガモ、アオバズク、キバシリ、ミソサザイ、クロツグミ、クロジは1回きりしか確認されなかった。



ヤマガラ（第一位）



ヒヨドリ（第三位）

表1. 確認種と一日あたりの飛来個体数

No.	種名	渡り 区分	季節				全期
			冬	春	夏	秋	
1	カルガモ	留鳥		<0.01			<0.01
2	キジバト	留鳥		<0.01			<0.01
3	アオバト	留鳥	0.02				0.01
4	アオバズク	夏鳥			<0.01		<0.01
5	モズ	留鳥	0.02				<0.01
6	カケス	留鳥	0.23	0.16		0.44	0.19
7	ハシブトガラス	留鳥		0.01			<0.01
8	ヤマガラ	留鳥	0.55	1.66	3.27	2.31	1.91
9	ヒガラ	留鳥	0.09	0.01			0.03
10	シジュウカラ	留鳥	0.77	0.46	1.66	0.87	0.91
11	ヒヨドリ	留鳥	1.49	1.26	1.90	0.20	1.28
12	ウグイス	留鳥	0.08	0.04	0.10	0.04	0.06
13	ヤブサメ	夏鳥		<0.01	<0.01		<0.01
14	エナガ	留鳥		0.13	<0.01		0.04
15	エゾムシクイ	旅鳥		<0.01	0.05	0.02	0.02
16	センダイムシクイ	夏鳥		0.11	0.04		0.04
17	メジロ	留鳥	0.77	0.59	1.96	0.14	0.90
18	キバシリ	留鳥		<0.01			<0.01
19	ミソサザイ	留鳥			<0.01		<0.01
20	トラツグミ	留鳥	0.08	0.01			0.02
21	クロツグミ	夏鳥		<0.01			<0.01
22	シロハラ	冬鳥	1.25	0.49		0.08	0.48
23	ルリビタキ	冬鳥	1.27	0.17		0.07	0.38
24	ジョウビタキ	冬鳥	0.23	0.09		0.05	0.10
25	コサメビタキ	夏鳥			0.04		<0.01
26	キビタキ	夏鳥		1.19	3.47	0.33	1.31
27	オオルリ	夏鳥		0.23	0.11	<0.01	0.10
28	ミヤマホオジロ	冬鳥	0.26	0.02		<0.01	0.07
29	アオジ	冬鳥		0.01			<0.01
30	クロジ	冬鳥		<0.01			<0.01
31	ソウシチョウ	留鳥	0.04	<0.01	0.23	0.02	0.07
-	同定できず	-	0.02	0.11	0.04	0.02	0.05
種数			15種	26種	15種	14種	31種
飛来個体数			7.17	6.80	12.90	4.59	8.01

結果と考察

■季節別の飛来個体数

- 飛来個体数は夏が突出して多かった。特に留鳥の飛来が大きく増加した。
- 夏に飛来個体数が多い要因として、周辺の繁殖地で巣立った幼鳥の加入が大きいと考えられる。
- 春季と秋季は留鳥以外の飛来個体数が少なく、場所を覚えた定着個体の利用する頻度が上がるのかもしれない。

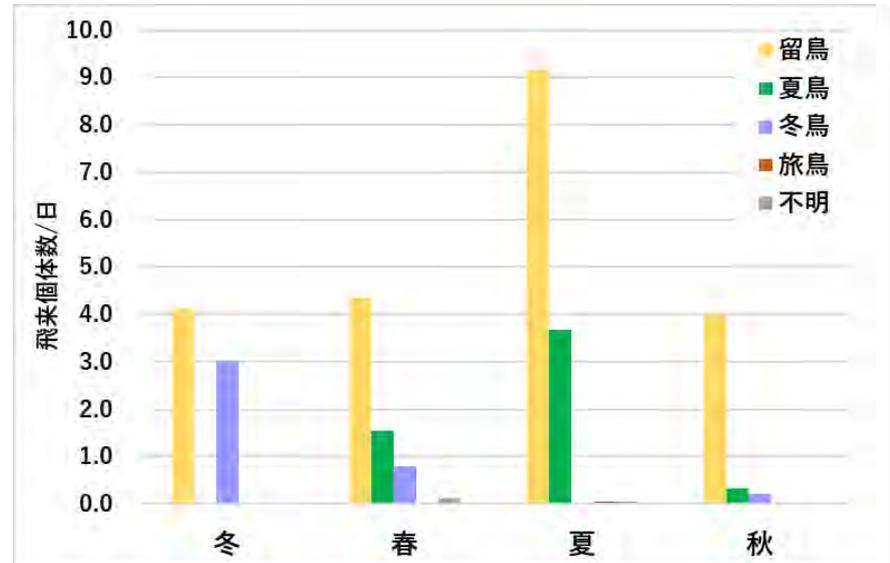


図1. 季節別の飛来個体数

■時間帯別の飛来個体数

- 飛来時間帯は、夜明け頃から日没頃までで、夜明け後から急激に飛来個体数が多くなり、日没前にピークとなった。季節によって夜明けと日没の時刻が異なるが、季節別にみても概ねこの傾向は類似していた。
- 特に夏の17時代は多くの個体が飛来した。このうちの大部分はヤマガラとキビタキに占められており、両種が入れ代わり立ち代わりやってきた。
- 種が特定できた個体でもっとも早い飛来は、アオバズク (6月28日4:37)、最も遅い飛来はキビタキ (6月29日19:26) であった。

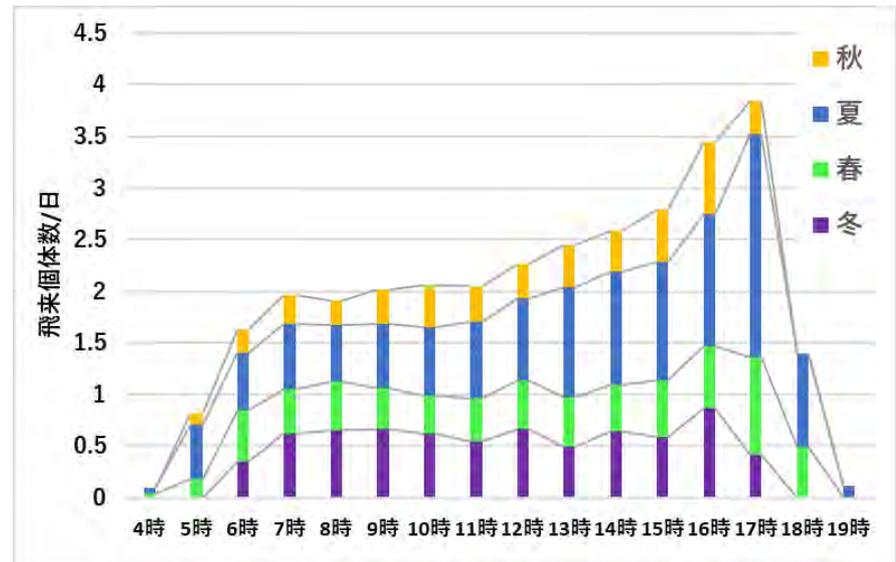


図2. 時間帯別の飛来個体数

彼岸山バードバスで確認された鳥たち（1）



カルガモ
2022年4月19日



キジバト
2022年4月20日



アオバト
2023年1月16日



アオバズク
2022年6月28日



モズ
2022年2月23日



カケス
2023年11月6日



ハシブトガラス
2023年5月1日



ヤマガラ
2022年1月27日

彼岸山バードバスで確認された鳥たち（2）



ヒガラ
2023年1月11日



シジュウカラ
2022年1月29日



ヒヨドリ
2022年2月12日



ウグイス
2022年1月30日



ヤブサメ
2023年4月14日



エナガ
2023年4月21日



エゾムシクイ
2023年9月2日



センダイムシクイ
2022年4月7日

彼岸山バードバスで確認された鳥たち（3）



メジロ
2022年1月30日



キバシリ
2022年3月30日



ミソサザイ
2022年6月26日



トラツグミ
2022年2月27日



クロツグミ
2022年4月17日



シロハラ
2022年1月29日



ルリビタキ
2022年2月10日



ジョウビタキ
2022年1月30日

彼岸山バードバスで確認された鳥たち（4）



コサメビタキ
2023年6月19日



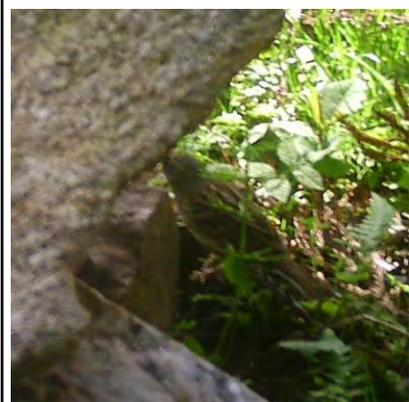
キビタキ
2022年5月3日



オオルリ
2022年4月23日



ミヤマホオジロ
2023年11月5日



アオジ
2022年4月9日



クロジ
2023年5月4日



ソウシチョウ
2022年2月1日